

背中を丸めた「猫背の牛」はいませんか？

釧路中部事業センター 標茶家畜診療所 獣医師 近藤 直



図1：診療所にてカルテ入力中の著者

図1は診療所でカルテを入力している著者の後ろ姿です。ご覧の通り背中が丸まっており、猫背です。入社して以来、諸先輩方に注意されているのですが、一向に治る気配がありません……。さて、皆様の農場には、背中を丸めた猫背の牛はいないでしょうか？そのような牛がいたとすれば、それは足（蹄）が痛いというサインかもしれません！！

◆蹄病による乳量の損失

蹄病にかかった牛における乳量の損失は、最大で36%になると言われています（表1）。実際には泌乳停止してしまう牛もいますから、それ以上かもしれません。蹄病には蹄底潰瘍や趾皮膚炎（いわゆる「イチゴ病」）など様々な種類がありますが、いずれも足の痛みによって跛行（はいずれも足をひきずるようにして歩くこと）がおこります。これによって牛の歩行運動は制限され、採食量や飲水量が減少し、これらのストレスが積み重なってケトosisや第四胃変位といった病気になることもあります。その結果として乳量や繁殖成績が悪化し、農場に大きな経済的損失をもたらします。これは経営者（人）にも大きなストレスです。

表1：ロコモーションスコアと乾物摂取量および乳の生産量の関係

ロコモーションスコア	乾物摂取量	乳の生産量
1	0%	0%
2	-1%	0%
3	-3%	-5%
4	-7%	-17%
5	-16%	-36%

(Cow SIGNALS® より引用)

◆蹄病の牛を見つけるための

ロコモーションスコア

跛行の程度が重症化していくにつれて経済的損失も大きくなっていくため、蹄病の牛は早期に発見して治療する必要があります。では、どのようにして蹄病にかかった牛を早期発見すれば良いのでしょうか？

足が痛い牛を探し出すために開発されたのが、ロコモーションスコアです（図2）。牛の立ち方および歩き方を観察し、スコア1（正常）〜スコア5（重度の跛行状態）に分類して蹄病に罹患している牛を探し出します。

蹄病治療で往診依頼される牛の多くは、明らかな跛行が認められることからスコア4以上と判定され、この段階ではすでに著しく乳量が減少しています（表1）。したがって、まずは明らかな跛行は認めないものの乳量が減少し始めるスコア3の状態を見つけることができれば早期発見と言えるでしょう。スコア2とスコア3の違いは、立っている時の背

線がアーチ状になっているかどうかです。ですから、立っている時に背中が丸まった猫背の牛を見つけたら歩かせてみて、明らかな跛行が認められなければ早期発見というわけです。この段階では、わざわざ往診を依頼しなくても、ダッチメソッドと言われる削蹄方法を利用することにより自分で簡単に処置できる程度のダメージであることが多いです。ダッチメソッドに関しては、別の機会に改めて紹介します。

◆ 牛も人もストレス解消！

今回ご紹介したロコモーションスコアを利用して足の痛い牛を早期発見し、これまでよりも早く治療することで、牛のストレスが小さいうちに解消されます。それと同時に蹄病による経済的損失も解消されますから、皆様（人）のストレスも軽減できるのではないのでしょうか。







<p>跛行スコア 1</p> <p>臨床所見： 正常</p> <p>解説： 立っている時も歩行時も背線は平ら。全ての歩様は正常である。</p>	 <p>立っている場合： 背線は平ら</p>	 <p>歩いている場合： 背線は平ら</p>
<p>跛行スコア 2</p> <p>臨床所見： やや跛行状態</p> <p>解説： 正常に立っているが、歩行時は背線がアーチ状になる。歩様は若干異常を示す。</p>	 <p>立っている場合： 背線は平ら</p>	 <p>歩いている場合： 背線はアーチ状</p>
<p>跛行スコア 3</p> <p>臨床所見： 中程度の跛行状態</p> <p>解説： 立っている時も歩行時も背線がアーチ状。1本かそれ以上の肢の歩幅が狭い。</p>	 <p>立っている場合： 背線はアーチ状</p>	 <p>歩いている場合： 背線はアーチ状</p>
<p>跛行スコア 4</p> <p>臨床所見： 跛行状態</p> <p>解説： 立っている時も歩行時も背線がアーチ状。1肢以上を引きずるようにして歩いている。</p>	 <p>立っている場合： 背線はアーチ状</p>	 <p>歩いている場合： 背線はアーチ状</p>
<p>跛行スコア 5</p> <p>臨床所見： 重度の跛行状態</p> <p>解説： 背線は極端なアーチ状で特定の肢に体重をかけることを嫌う。横臥状態から動くことを嫌う。</p>	 <p>立っている場合： 背線はアーチ状</p>	 <p>歩いている場合： 背線はアーチ状</p>

図2：ロコモーションスコアの判定基準
スコアは1～5に分かれており、スコアが高くなるにつれて足の状態が悪く考えられます。蹄病を早期発見するためには、牛が立っている時と歩行している時の背中状態に注目して観察します。<Zinpro Corporation より転載>

